

進路たより



秋の夜長を楽しむあきお君

進路を考えよう!

3年後のあなたは何していますか？

山商生になって7ヶ月、「まだ、卒業後のことを考えるなんてまだ早い…」と思っている人がいるかもしれません。しかし、簡単にすすむべき進路を決めることはできません。最終的には自分の興味や関心、適性に合った職業に就いて、「毎日が充実している!」と感じながら生活できていたら素晴らしいことだと思います。そのために、すでに就職か進学かを決めている人も、まだ決めかねている人も、1年生のこの時期から3年後の自分の姿に思いを馳せることはとても大事です。

○働くということ

みなさんは、「働く」ということの意味を今までに考えてみたことがありますか？

高校を卒業して働いている先輩たちに仕事に関する考え方を聞いてみると、「収入派」と「充実派」に分かれるようです。

これらをもう少し具体的に述べると、「働く」ことは次のような側面があるともいえます。

(1) 経済的基盤 (収入を得て、生活や家族を支える)

(2) 自己実現 (やりがいを感じながら働くことで充実感を得て、自己の成長を促す)

(3) 社会貢献 (自分の役割を果たし、人と社会を支える)

このうち、(1) (2) はまず第一に考えることだと思いますが、就職という道を選択するには(3)についてあらためて考えてほしいと思います。私たちの生活は社会なしには成り立ちません。「これからは自分も社会を支える一員になる」という意識を持ってください。皆さんが自立した「社会人」になるためには、意識改革が必要です。

また、自立した「社会人」には「責任」が必ず伴います。家族への責任、会社への責任、人への責任、そして社会への責任です。これらの責任に応えるとはどうすることであるのか、今一度、自分自身に問い直して見てください。

○職業を選ぶということ ～職種、業種を考えよう～

世の中には、皆さんが知らない職業を含め様々な職業があります。自分の知っている職業だけでなく、いろんな職業にも関心を向けて、どのような内容の仕事なのか詳しく調べてみましょう。やりがいのある自分に合った職業を見つけたら、その職業に就くために、卒業後進学するのか、あるいは就職するのかを考えていきましょう。

ところで、将来の職業を考える上で、大切なのは「業種」と「職種」について考えておくことです。では、「業種」「職種」とは何でしょうか。

業種とは、事業の種類を意味する言葉です。企業や個人事業主が携わっている産業の分野を指します。世の中にある事業の大分類・ジャンルとも言い換えられるでしょう。例えば「小売業」「接客業」「製造業」「建設業」などが具体的な業種の例です。自分に合った仕事を探すためには、業種をしっかりと理解しておく必要があります。

職種とは会社の中で1人1人が受け持つ仕事のことを言います。一般事務、経理、組立、検査、フロント係、調理、整備、接客、販売・・・など数限りなくあります。職種をえらぶ時には、自分の能力や適性を最大限に発揮できる仕事は何なのか、よく見極めましょう。

○進学するという事

進学することはそれ自体が目的ではありません。「遊びたいから大学行くか〜」「友達も進学するし、進学しよかな」などの考えではいけません。進学してから、さらにその先にある、卒業後に自分は何をしたいのかを見据えて、そのために何をどう学びたいのかという観点から考えていく必要があります。次の2つの項目について考えてみましょう。

①自分の興味・関心がある分野は何か

②自分の性格・特性・能力とはどんなものか

これらを確認することで、自分のやりたいこと、が明確になってきます。自分のやりたいことが明確になったら目標達成のためにはどのような学校に進学するべきなのかが見えてきます。

次のテーマで学校種について見ていきたいと思います。

○学校種を考える

校種には大きく分けて大学(短大を含む)と専門学校(各種学校を含む)の2種類があります。大学(短大を含む)は専門知識だけでなく、広く一般教養も学び、全人格的な成長発達を図ることを目標にしています。専門学校(各種学校を含む)は、すでに具体的な目標が明確であり、それに関係した職業に就くために学びたい人に適しています。

以上の特徴がある中で、それらを詳しく分類すると次のようになります。

◇校種の種類

1.四年制大学

専門分野の研究が目的であり、高度な内容を学習し、幅広い分野から選択して高度な内容を学習することができる。

2.短期大学・短期大学部

教養＋実務的な力を身につけることができる。

3.専門職大学・専門職短期大学

平成31年度に創設された、特定の分野の職業に就くために、質の高い内容を学ぶことができる学校。専門学校に大学資格を加えたイメージ。

4.専門学校

特定の職業に密着した実務教育を受けることができ、特定の分野で即戦力となれる、知識や実技を学ぶことができる。

5.各種・その他学校

上記以外の学校で、学校教育法に基づいているが専修学校の条件に満たない物が各種学校。学校教育法で規定されていない学校をその他学校として区別している。

以上の校種の中から、自分に適した校種を決めることができたなら、次は具体的な学校選択の段階に入っていきます。進路資料室には学校のパンフレットなどの資料がそろっています。また、学校のHPを閲覧したり、オープンキャンパスに参加するなどして、早いうちに情報収集を始めてください。

○進学に必要な費用

みなさんは、進学するためにどれくらいの費用が必要になるのか知っていますか？進学先により、学費はかなり異なります。

◇受験にかかる費用

国公立大学と私立大学は大学・学部などによって受験料が異なります。私立大学の場合は、大学入学共通テスト試験利用入試と一般入試とでも受験料が異なります。

主な受験料	
大学入学共通テスト試験（3科目以上）	18,000円
大学入学共通テスト試験（2科目以下）	12,000円
国公立大学個別受験	17,000円
私立大学	35,000円程度
公立短期大学	18,000円
私立短期大学	30,000円程度

◇入学までの費用（初年度納付における平均額）

入学手続きとして、入学金、授業料（全期または半期分）、施設・設備費などの初年度納付金を納めなければなりません。私立大学は初年度納付金や年ごとの授業料などが、大学・学部によって異なります。

※国公立の場合は文系、理系にかかわらず基本同額 私立の場合は学部によって変わります。

費用内訳	国公立大	私立大(文系)	私立短期大	専門学校(情報系)
入学金	282,000 円	225,651 円	237,615 円	169,000 円
授業料	535,800 円	815,069 円	723,368 円	602,000 円
施設・設備費	必要に応じて	148,272 円	166,603 円	444,000 円
合計	817,800 円	1,188,991 円	1,127,586 円	1,214,000 円

進学して生活するにあたって、以上のような項目での支出が調査でわかっています。

<一人暮らし1ヶ月の生活費 支出内訳（円）>

	首都圏	首都圏以外	全国
住居費	66,170	約 49,000	53,920
食費	27,430	約 23,000	24,680
交通費	6,120	約 3,000	3,850
教養娯楽費	13,460	約 11,000	11,760
書籍費	2,190	約 1,000	1,700
勉学費	1,910	約 2,000	1,900
日常費	8,080	約 7,000	7,520
電話代	3,800	約 3,000	3,110
その他	2,520	約 2,000	2,310
貯金・繰越	11,380	約 14,000	14,300
支出合計	143,060	約 115,000	125,050

※2022年 全国大学生生活協同組合連合会調べより

○これからのコース選択について

来年度のコース登録（本登録）が11月11日に迫ってきています。これから選択するコースによって取得できる資格などが違ってきます。取得する資格が変わってくると、進路先も変わってきます。就職・進学いずれにしても積極的に担任の先生や教科の先生に相談して、夢をかなえるコースを選択できるようにしましょう。